

## 山行報告 剣山～三嶺

【山域】四国

【日時】2016/11/12 日帰り

【参加者】川口(単独行)

【天候】晴れ

2016年11月12日、この日は徳島県の最高峰で百名山の剣山から高知県最高峰の三嶺(みうね)まで日帰り縦走してきました。写真と共にまとめてみたいと思います。

11月12日、この日は道の駅から車で1時間半くらい離れた剣山の登山口・見ノ越まで行かなければいけなかったのに、目覚ましをかけていつもよりも早く起床。食事をパパッと済ませ、見ノ越に6時過ぎに到着しました。既に車がかなり停まっており、多くの車が無人だったので既に出発済みか前日出発した人たちがいた模様で、これなら登山口で泊まってもよかったか・・・?なんてことを思いつつ、支度をして6時半出発。まだ運行していないリフトは使わず、神社の鳥居をくぐって登山開始です。



緩い坂道を上がっていき、35分くらいでロープウェイの駅に到着。ロープウェイの駅からはいくつかルートが分岐しておりますが、そのうちの一つ、次郎笈(じろうぎゅう)という剣山の隣の山に手早く行けるルートは道が崩落しているらしく通行禁止になっていました。



左写真の右側のトラロープが張ってある道が地図上では行けることになっていたルート。現地に来てみないと分からないこともあります。地図で説明すると、上端の「にしじま」というロープウェイの駅から、大剣神社や剣山頂上ヒュッテを経由せずに水場（御神水）を通過するルートが通行止めになっていました。

さて、ロープウェイの駅から 15 分くらい登ると、大剣神社という神社に辿り着きます。「天地一切の悪縁を断ち 現世最高の良縁を結ぶ」と、なんと力強い言葉が書かれており、神社の後にあった剣のような立派な岩石は調べてみると「御塔石」という御神体ということでした。確かに、御塔石は存在感が際立っていました。





ここからさらに 20 分くらい進むと、頂上直下の「剣山本宮宝蔵石神社」に辿り着きます。山頂付近にある神社としては富士山や立山、月山がインパクトがありましたが、ここの神社も実に立派でした。2,000m 近い標高にあるとは思えません。



さて、ここまでは全く疲れることなく到着しましたが、長いのはここから。まずは剣山頂上を目指します。頂上に至るまでにテラス(東側)とテラス(西側)というのがあり、せっかくここまで来たので両方とも行ってみました。写真左が東側からの展望、写真右が西側からの展望です。西側の写真中央に聳えている山がこの縦走の2箇所目の目的地・三嶺。



ここから歩いて1分くらいのところに、剣山の山頂があります。





(前ページ左上) なにかと思ってとりあえず写真を撮っておいたのですが・・・中央に埋もれているのは三角点だったようです。こんな状態の三角点は初めてでした。

(前ページ右上) 登頂写真。

(前ページ下) 次郎笈に至る道。

さて、この日の行程からいくと剣山登頂は序盤の序盤。屋久島の宮之浦岳山頂で話した人たちが「なにかと絡めないと、剣山往復だけでは物足りない」と言っていたように、たしかにこれで下山してしまっただけでは物足りなさが確実に残ります。剣山に関しては大山のこちらも頂上で話した方(四国の方)より「四国の山には熊がいないけど唯一剣山にいるらしい」という話も聞いており震え上がっていたのですが、上の登頂写真を撮って下さった方からも「剣山では10年に1度くらい熊の被害が出る。朝刊の記事に載らないように」なんて脅され、ここにきて再び熊の恐怖再来です。とはいえ止めるはずもなく、そのまま先に進む。歩くこと30分、隣の次郎笈に到着です。右の写真は次郎笈から剣山を見た光景。



しばし景色を楽しんだあと、出発。快晴だったとはいえさすがに標高 1,900m 付近は寒く、動いているときはいいのですがじっとしていると体の芯から冷えていきます。45 分くらい歩き、丸石という山の頂上に辿り着いた時点で振り返ってみるとそこにも絶景が。



左写真、右に聳えているのが次郎笈、その左奥に見えるのが剣山です。遠近法の妙で剣山の方が低く見えます。木々のない開けた稜線から、樹林帯の中に入りますが非常に歩きやすい道が続いていました。この先もそんな道がしばらく続きますが、場所によっては笹が膝下くらいまで生い茂っていて登山道が見えにくい箇所があり、朝露が溜まっているところではくるぶし周辺がびしょ濡れになっていました。スパッツを着けてきて正解です。このままどんどん進み、白髭避難小屋に 12 時着。以前計画した際はここに初日泊まろうと考えていましたが、今回の計画ではこの小屋に 13 時過ぎに到着し三嶺山頂に 15:15 に到着する計画に上方修正していました。結果的に 1 時間も短縮して到着できました(右写真)。ここでは 7 名くらいのパーティが既に宴会？を始めており、オレンジ色のテントがひと張既に張ってありました。

ここまでは思っていたよりもアップダウンがなく比較的楽に辿り着けたのですが、ここから先の三嶺までがかなりキツかった！かなり標高を下げてから、一気に山頂まで登り詰めます。ようやく山頂に着いたのは 13:36。計画よりも 1 時間半以上早く到着しました。







(前ページ左上写真)三嶺山頂より、中央の一番高く見えるピークが次郎笈、その左側のピークが剣山。

(前ページ右上写真)歩いてきた稜線。歩いてきた道が全部見えるのは実に気持ちがいいです。

(前ページ左下写真)三角点と標識。

(前ページ右上写真)別の方角を見ると、天狗塚(左奥に見える三角に尖ったピーク)への稜線が。

山頂で広島から訪れた 2 人組と 30 分くらい談笑していたら天狗塚の方から 3 人組が登ってきました。その彼らが小屋方向に向かったのを合図に、俺も戻ることにし後ろから広島からの 2 人組が続きました。



小屋に到着する直前の写真、前に見えるのが天狗塚方向から来た 3 人組です。小屋の手前で追いついたので少し話していると意気投合し、今後の予定を訊かれたので「一泊して明日の 10:33 のバスで名頃から見ノ越に向かう」と説明したところ、「今から名頃に降りて車で見ノ越方面に向かうので、よかったら乗っていかないか」というありがたいすぎるオファーが！！うまくいけばこれで 1 日短縮できます。

ザックをピックアップし名頃方面へ下山開始。ダラダラと長い下り坂を進み、駐車場まであと少しというところで…事件が。水か電気を送っているような黒い色をした細いホースのようなものが地面を何本も這っていたのですが、そのひとつを踏んだのか今までで味わったことのないくらいツルツル！！と滑って転ぶ。もちろん今までの登山でも何度か転んでおりその度に事なきを得ていたのですが、今回は右手を突いた位置が角度のある固い木の根っこで、突きどころが悪かったらしく手を突いた瞬間目の中を火花が飛び散り、数秒間立ち上がれないくらいの激痛が走りました。

痛みがある程度去っても普段通り手が動かない。指は曲がるんですが反らせようとすると全く動かず、手を広げようとしても痛みが走ります。握りこむことも出来ませんでした。上の 3 人組は結構前に追い抜いており、先に駐車場に着いたので手をさすりながら待っていると 3 人が降りてきました。事情を話すと「それは大変！大事には至ってなさそうだけど、もし折れていたら変な風にくつつ前に病院に行っておいた方がいいのでは」と心配して下さりました。「誘ってしまったからこうなってしまったと思うと、申し訳ない・・・」とまで言って下さいましたが、翌日だったとしても転んでいた可能性はあり、下手したら足を捻っていたかもしれないと思うとむしろ手で良かったと言ってもいいのかもしれない。

郷土料理の祖谷(いや)蕎麦など教えてもらいながら和気藹々と見ノ越まで戻り、連絡先を伺ってお礼を言ってからこのあとの行動を検討しました。既に17時を過ぎており、さらにこの日は土曜日。救急病院など行ったこともなく全く知識がなかったのですが、幸い車を停めていたロープウェイ乗り場はネットが繋がったので調べてみると、こういう場合は当直の医師がいる病院を探すのがベストということが分かりました。一番近い病院の中から2箇所電話してみるも当直で整形外科医がいないということで断念。もっと範囲を広げて病院を調べてみると、少し遠かったのですが高知市の病院が見つかりました。電話してみると24時間やっており当直で整形外科医がいるという。よし、行ってみよう！ということでおそろおそろ車を発進させると、運転には支障がないのでホッと一息。そのまま車を走らせて病院に着いたのが20時半くらい。受付を済ませて当直の医師に見て頂き、レントゲンを撮ってもらいました。このときのドキドキと言ったら。レントゲンの結果が出たので再度診察室に行くと、開口一番「骨には異常がなさそうですね」。

助かります！診察で分かったことですが、手の全体が痛いわけではなく局所的に痛いだけで、その位置は中指付け根の親指側。医師の説明によると、「この位置には帽状腱膜という腱があり、今回は帽状腱膜の橈側(親指側)を傷めたのではないかと。帽状腱膜は指の関節を曲げるための大事な役割がある」とのことでした。「1週間くらいで日常生活を送る分には全く問題なくなり、1ヶ月もすれば強く握っても問題なくなるでしょう」ということで・・・いやはや本当にホッとしました。

今回は油断していたわけではなく、むしろ滑りそうな場所だったので注意しながら歩いていたのですが、結果的に怪我をしまいました。これが右足の怪我だった場合車を運転できないのでその場合はどうすればいいんだろう？など、色々と考えさせられる契機になりました。少なくとも、こういった場合には「当直の整形外科医がいる病院を探しすぐに向かう」ことで手当てしてもらえ、ということを知れたのは自分にとってプラスになったと思います。

四国編・完